



平成 29 年 4 月 3 日

次世代営業店モデルの実証実験における機器の追加について

千葉銀行（頭取 佐久間 英利）は、平成 29 年 4 月 3 日（月）より、真砂支店（千葉市美浜区）にて取り組んでいる次世代営業店モデルの実証実験において、新たな業務機器（試行機）を導入いたしましたので、お知らせします。

今回、新たに導入した「行員用管理タブレット」は、日本アイ・ビー・エム株式会社（代表取締役社長 エリー・キーナン）の協力を得て開発いたしました。お客さまが「事前受付タブレット」に入力した内容やお手続きの進捗状況を本機器で把握することができ、行員は担当窓口への誘導や手続きにおけるサポートを迅速に行うことができます。

また、昨年 9 月より導入済みの試行機についても、入力項目の簡略化や対象取引の拡大等の追加開発を行っております。

次世代営業店モデルの実証実験の概要は以下のとおりです。当行は、今後もフィンテック等の先進技術を活用し、お客さまにより質の高い商品・サービスの提供に努めてまいります。

【実証実験の概要】

1. 実施店舗 真砂支店（千葉市美浜区真砂 4-1-5（ショッピングセンター P I A 1 階））
2. 実施期間 平成 28 年 9 月 20 日～平成 29 年 5 月 31 日（予定）
3. 導入機器 事前受付タブレット、スマートステーション、対話式端末、ロビー入金機、リモート端末、行員用管理タブレット等

以 上

【次世代営業店モデル店舗（真砂支店）パース】



【導入機器の概要】

機器名	機能概要	追加開発事項
事前受付 タブレット	お取引内容をタブレットのタッチパネルで選択し、伝票等への記入負担を軽減します。	口座番号を自動で読み取る機能を搭載し、お客さまの入力手続きの簡略化を図りました。
スマート ステーション	事前受付タブレットに入力した内容を端末に反映し、振込、振替、税公金等の取引をスピーディーに行います。	導入当初よりも対象取引を拡大し、利便性を向上いたしました。
対話式端末	お客さまと行員が対話により新規口座開設等のお手続きができ、伝票の記入負担を大幅に減らします。	タッチパネルを大型化し、文字の大きさや電子サインの書き易さを改善しました。
ロビー入金機	大口の現金入金を専用機で受け付け、簡単かつスピーディーにお手続きできます。	(平成 28 年 9 月より継続運用中)
リモート端末	テレビ会議システムをつうじて営業店と本部を結び、相続等の複雑な相談に本部の専門人員が直接対応します。	(平成 29 年 1 月より継続運用中)
行員用管理 タブレット	事前受付タブレットに入力した内容やお手続きの進捗状況を把握し、お客さまを素早くサポートします。	(平成 29 年 4 月に追加導入)

以 上